

「在宅医療の現場から見えること」 ～多職種連携のポイント～

講師：鶴岡 浩樹 氏

(日本社会事業大学大学院 福祉マネジメント研究科 教授)

2025年に全人口の約18%が75歳以上となります。

押し寄せる高齢化の波の中で、高齢者の療養先が「施設・病院」だけではおさまらず、「在宅」という選択肢もこれまで以上に増えることが予想されます。

医療との連携は難しくないこと、予防の段階からかかわれること、私たち社会福祉士が在宅療養支援の中でできることを考えていきます。

【講師プロフィール】



鶴岡 浩樹 (つるおか・こうき)

日本社会事業大学 大学院福祉マネジメント研究科 教授
つるかめ診療所 副所長

医学博士、認知症サポート医、新宿区在宅療養専門部会 会長、
東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会 会長、
日本統合医療学会 理事、『月刊福祉』誌編集委員
しもつけ舞踏団 団長

【経歴】

1993年 順天堂大学医学部卒、自治医科大学地域医療学入局
1995年 自治医科大学地域医療学教室 シニアレジデント
2001年 ケース・ウェスタン・リザーブ大学 家庭医療学留学
2004年 自治医科大学附属病院 外来医長
2007年 つるかめ診療所 所長
2013年より 現職

【研究分野】

地域医療、プライマリ・ケア、在宅医療、多職種連携、福祉人材育成、EBM、介護ロボット

日時 2025年1月12日(日) 14:00~16:00

会場 Zoomによるオンライン研修

参加費 無料

定員 30名 ※定員を超えた場合は県南ブロック会員を優先します

申込み 茨城県社会福祉士会ホームページ

または QRコードから⇒



締切り 2025年1月8日(水) 22:00

* 申込み者には、EメールでZoom入室のURL等をお送りします